

ラグビー憲章読本

－ ラグビー憲章 (Playing Charter) の原点 －

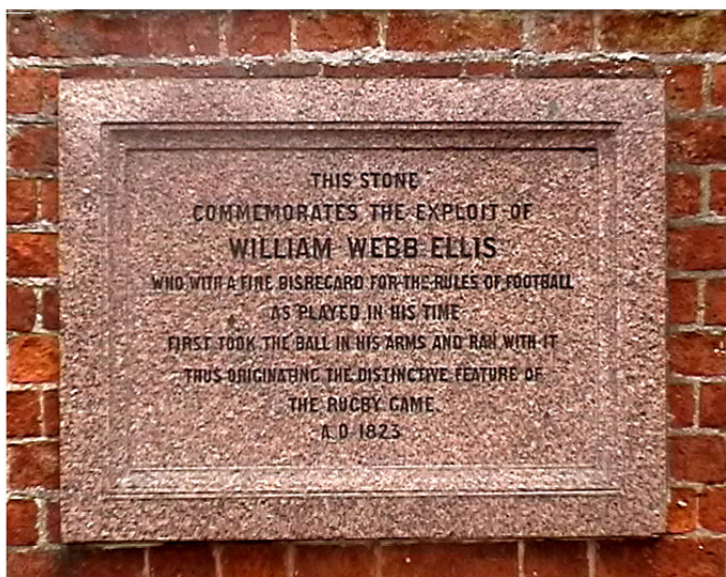
この憲章 (charter) はラグビーをプレーする (playing) に当たって大切なものです。

憲章には主権者この場合 International Rugby Board が与える免許状という意味もあり、守るべき信条を示して、憲章に書かれていることを理解し守らなければ、ラグビーに関わる資格がないということを宣言しているものです。指導者は、プレーヤーたちが資格無しに誤った道を歩むことなく、豊かなラグビー人生をおくることを保証する責任があるのです。

ラグビー憲章制定までの経緯を振り返り、考察することによって、理解を深めることが必要であると思います。ラグビー界で「プレーが先」といわれるのは、ルールより前にプレーがあって、ルールはそのプレーの精神を大切に取り入れ、規則として組み入れて、よりよいスポーツゲームを創造する流れを指すもので、それは人間の知恵の賜物です。

次に、ルールが先か、憲章が先かという点、ルールが先です。ラグビー憲章は 2023 年にラグビー発祥 200 年を迎える歴史の中で、最近の 10 年程の間にグローバリズムの流れに沿って制定されたものです。プレー・ルールの次に制定されたものですが、それらの精神と歴史を踏まえ、より発展することを目的として制定されたものであることは勿論のことです。プレーヤーの資格試験や免許証があるわけではありませんが、全ての人の心の中に憲章に対する知識と理解があることがラグビーを楽しむ上で大切なことであり、ラグビーの健全な普及発展の上に必要なことであることは言うまでもありません。

ラグビー発祥を物語るイングランドのラグビースクールにあるラグビー発祥記念碑に次のように書かれています。



wikipedia より転載

http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/4/47/WWEplaque_700.jpg

ラグビーは迸るエネルギーと自由で発想豊かな人間性の発露と言うべき行動を、大らかに受け止めて一つの娯楽スポーツを創造していった人達に敬意を表さなければなりません。

初めに「ルール」があったわけではないということは、いろいろなケースに応じて “case law” を申し合わせて競技していたということです。話し合いは次の 3 つの原則を守って進められました。

- 1.equal condition 同等の状態・条件で公平に戦う
- 2.open play オープンプレーに終始する
- 3.safety 事故防止に努める

話し合いは、プレーの基盤にスポーツマンシップの具現と、ルールは少ないほどよいという理念のもとに進められました。話し合いによる不文律の時代を経て、1860 年代に整理成文化が進みました。1870 年に RFU Rugby Football Union も創立されました。

競技人口の増加とともに組織化も進み、イングランドから英国全体に広まり、更に世界中の各

地でプレーされるようになりました。巨大な競技場が各地に建設され、メジャースポーツへと発展を遂げました。そして世界のラグビーの運営のグローバル化の波によって IRB の必要性が議論され設立の運びとなりました。IRB は W 杯の実施、プレーの研究からルール改定に携わり競技の向上をめざして憲章を制定しました。

憲章制定後もいろいろな変遷がありました。改めて 2008 年の改定憲章を読み直して理解を深め実践に努めましょう。

Playing Charter は「Introduction」（はじめに）、「Principles of the Game」（ゲームの原則）、「Principles of the Laws」（競技規則の原則）、「Conclusion」（おわりに）の 4 部から成っています。

以下は意識した物を掲載しておきます。

・ ・はじめに・ ・

ラグビーは simple pastime 単なる娯楽としてスタートしました。sport も慰みという意味の言葉で、スポーツ sports は複数形です。人間は、本能的に身体を動かして楽しみを見つけ、いろいろと工夫していく中で、多くのスポーツの一つとしてラグビーを創造しました。近年、ラグビー人口増加とともに、巨大な競技場が各地に設立され、メジャースポーツに成長しました。

ラグビーは、all kinds of people 全ての人種、男女、体格、年齢を問わず多くの人々の興味と関心を引きつける能動性と同様に重要な多くの側面と顔 (identity) を持っています。

ラグビーの持つ普遍性は、人間の本能に即したこのスポーツは、全ての人に愛されるべきものであるという誇りとともに、お互いに相手を認め協力して競技を楽しむことを求めています。それは表面的な活動だけでなく、内面的な協力からおもいやりの心情といった精神的なものをも含むものです。プレーするにしても、それに伴うサポート活動をするにしても、ラグビーには勇気、忠実心、スポーツマンシップ、規律そしてチームワークといった社会的・情緒的理念を体得し発揚することを重要視しています。勇気、忠実心、スポーツマンシップ、規律、チームワークを追求によって培われる人間性は広く社会的貢献に役立つものです。

この憲章は、競技方法と行動の評価を可能にするチェックリストの元になるものです。その目的は、ラグビーがそのユニークな特徴をフィールドの内と外の両方で維持することを確実なものにすることです。長い歴史を経てきた形や方法と精神を文字にした、今日および未来のラグビーを考える場合のチェックリストです。それらは、競技の場面だけでなく、競技場外、社会全般にあてはめられるべきものです。競技場以外でも生かされるべきものであるということに特に認識しなければなりません。

この憲章は、ラグビーをプレーしたり、コーチしたり、競技規則を作成したり、それを適用する場合など全てにあてはめられるべきものです。この憲章は競技規則を補う重要なものであり、どのレベルのプレーヤーにも基準となるものです。競技規則を補うものであると位置付け、包含されている内容に競技規則に書かれていない精神的な要素が多いことに注目し、疎かにしてはなりません。各チームはシーズン初めに必ず憲章を読み直して、理解を深め実践することを誓わねばなりません。指導者は実地指導に先行する必須のものとして、憲章の内容と精神の説明に十分な時間と費やさねばなりません。レフリーも権威を示す糧となる憲章を深く理解し Art of refereeing の研修につとめねばなりません。

・ ・ゲームの原則・ ・

[競技の本質]

フットボールの試合中に最初にボールを拾い上げ走ったと信じられている、かのウィリアム ウェブエリスの伝説は、ラグビー校でそれが起きたとされる 1823 年のその日以来、これを否定しようとする数え切れない程多くの人々の反論に対抗して今日に生き延びてきました。ラグビーという競技が、迸る情熱から発動した一つの挑戦行動にその起源をもっていたにちがいないとは、妥当で適切なことと考えられています。

一般の観覧者にとって、一見矛盾の塊のように思われるラグビーゲームの裏に、ゲームを支配する原則を即座に見いだすことは難しいことでしょう。例えば、ボールを獲得しようとして相手に強烈な身体的圧力をかけているとみられる活動を、全く問題ないとしているのは、それは故意に、あるいは悪意をもって怪我を引き起こそうとする行為とは全く別なものであるからです。

これらはプレーヤーとレフリーが追求していかなければならないものであって、境界線を越えること無く、自制と規律を合わせて実行遵守することによって、個人および集団でそれを明確に線引きする能力が求められ、行動の規範はその能力に依存しているのです。

[競技精神]

ラグビーの魅力の多くは、ラグビーが競技規則に書かれ文章に従うと共に、競技規則の精神の中でプレーされているという事実です。このことが確実に実行実践されるための責任は、一

個人に帰するものでなく、コーチ、キャプテン、プレーヤーそしてレフリーを含むものです。

ゲームの精神は規律、自制、相互の信頼を通してこそ達成され具現されるものです。ラグビーのような身体的に激しい競技においては、これらの資質は、ゲームの将来における成功と生き残りにきわめて不可欠な友情とフェアプレーの素質を培うものです。それらは時代おくれの伝統と美德かもしれないが、時の試練に耐えてきたものであり、ゲームがプレーされるすべてのレベルにおいてそれらがその永く際だった過去を通して重要であったように、ラグビーの将来に対しても重要なものとして、同様に現存しているのです。ラグビーの原則は、ゲームが基礎を置く基本的な要素であり、ゲームに参加するものは、ゲームの原則によって、どこにゲームの特徴があるのか、そして何がラグビーを一つのスポーツとして際立たせているのかを、ただちに認識することを可能にしてくれます。ラグビーを愛することは、現在の楽しみだけでなく、その将来を確かなものにする義務を含んでいることを忘れてはならないのです。

[競技方法]

競技の方法は、それぞれ15名からなる2つのチームが、フェアプレーに徹し、競技規則に従い、スポーツ精神に基づき、ボールを持って走り、パス、キックおよびグランディングして、できるかぎり得点を多くあげることです。

ラグビーは世界中で成人男性、成人女性、少年、少女によってプレーされており、6才から60才にいたる300万人以上の人々が定期的にラグビーのプレーに参加している。

チームに求め競れるスキルと身体的条件に多様性があるため、あらゆる体形サイズの、それぞれの能力を持つプレーヤーが、プレーに参加する機会をすべてのレベルにおいてもつことができるスポーツです。ラグビーは身体が大きい、非常に力の強い人達だけのスポーツではないのです。

[ボールの争奪と支配の継続]

ボール獲得のための争奪は、ラグビーの中核・鍵となる特徴の一つです。この争奪はゲームを通していろいろな形で発生します。大きくは3つに分類できます。

コンタクト時に

一般のプレーで

スクラム ラインアウト そしてキックオフでプレーがさいかいされる時

ボールの争奪は、その前のプレーにおいて示されたすぐれたスキルの優劣によって状況が左右されます。例えば、プレーを継続する能力がないためにタッチにボールを蹴り出すことを強いられたチームは、ラインアウトでボール投入を認められません。同様に、ボールを前に落としたり、前に投げたりしたチームは、そのあとのスクラムでのボールの投入が認められません。ボール投入の際、ボールを投入するチームに、常に優位性があることは間違いのないことです。この場合でも、これらのプレーの中で、公平なボール争奪が可能であることは重要なことです。

ボールを保持しているチームの目的は、相手にボールを奪還されないように支配を維持し、スキルに富んだプレーで前進し、得点を上げることです。これに失敗するということは、ボールを支配しているチーム側の能力不足の結果として、あるいは相手防御の優秀さのために、相手にボールを譲り渡すことを意味します。つまり、ボール争奪からボール支配の継続することは、利益を得るか反対に損失を被るかということです。

一方のチームがボールの保持の継続を維持することを試み、一方相手チームはボールの奪還しようと試みます。そしてプレーの継続とボール保持の継続との必須のバランスが保たれることとなります。争奪の可能性と継続のバランスは、セットピースと一般プレーの両方にあてはまるものです。

・ ・ 競技規則の原則 ・ ・

競技規則は以下の原則を依り所としています。

[全ての人にとってのスポーツ]

競技規則は、異なった体格、スキル、性そして年齢のプレーヤーに、それぞれの能力のレベルにおいて、コントロールされた、競争的で楽しい環境において参加できる機会を提供しています。競技規則に関する完全な知識と理解を有することは、ラグビーをプレーする全てのプレーヤーにとって義務です。

[独自性の維持]

競技規則は、スクラム、ラインアウト、モール、ラックそしてリスタートを通して、ラグビーのもつ他にない特徴が維持されることを保証するとしています。また、ボール争奪と継続に関連する鍵となる特徴、すなわち後方へのパス、攻撃的なタックルについても同様です。

[喜びと楽しみ]

競技規則は、プレーをする上で楽しく、見る上で面白いゲームのための枠組を提供していま

す。時として、この2つの目的が両立しないように思われる場合がありますが、そのような場合には、プレーヤーにプレーヤーのもつスキルを自由に発揮できるようにさせることで、喜びと楽しみが大きくなるのです。そして、この適切なバランスを達成するために、競技規則は常に見直されています。競技規則改正はラグビーをより楽しむための工夫の結果ですから、その精神と知恵を理解し生かすことが大切です。

〔適用〕

プレーヤーには競技規則を遵守し、フェアプレーの原則を尊重するという最優先の義務があります。

競技規則は、ゲームがラグビーの原則に従ってプレーされるのを保証するように適用されなくてはなりません。それは、レフリーとタッチジャッジが、公平と一貫性と繊細さと、そして最高のレベルにおいては、管理を通してこそ達成できるものです。その返礼として、マッチオフィシャルの権威を尊敬することはコーチ、キャプテンしてプレーヤーの責任です。

・ ・ おわりに ・ ・

ラグビーは、成人の男性にとっても女性にとっても、少年にとっても少女にとっても価値のあるスポーツです。ラグビーは、仲間の競技者との間のチームワーク、理解、協力、そして尊敬をつくりあげます。その基になるものは、それらがいつもそうであったように、参加する喜び、ゲームが要求する勇気とスキル、関与するすべての人々の人生を豊にするチームスポーツへの愛、そしてゲームにおいて共有される興味を通して築かれる生涯の友情です。

そのような偉大な友情が、試合の前にも後にも存在するのは、ラグビーのもつ激しい身体的・競争的特徴があるからです。競い合うチームのプレーヤーが、お互いに楽しむという永きに渡って受け継がれてきた伝統は、ゲームの中核となる部分として今日も存在しています。

ラグビーは、プロフェッショナルの時代を完全に受け入れるようになりましたが、リクリエーショナルなゲームとしての特質と伝統は残っています。伝統的なスポーツの特質の多くが弱められ、あるいは疑われる時代にあって、高い水準のスポーツマンシップ、倫理的な行動、そしてフェアプレーを維持する能力をラグビーが有することを、ラグビーは真に誇りにしているのです。この憲章はこれら大切に守られてきた価値を強めるための一助になることを期するものです。

2009. 03. 14

西川 義行